

2: 急性骨髄性白血病(AML)【成人】

1. WG メンバーリスト

氏名	所属	診療科
責任者 矢野 真吾	東京慈恵会医科大学附属病院	腫瘍・血液内科
今橋 伸彦	The University of Texas MD Anderson Cancer Center	Stem Cell Transplantation & Cellular Therapy
小澤 幸泰	名古屋第一赤十字病院	血液内科
加藤 淳	慶應義塾大学病院	血液内科
金森 平和	(独)神奈川県立病院機構 神奈川県立がんセンター	血液内科
黒澤 彩子	国立がん研究センター 中央病院	造血幹細胞移植科
鋤塚 八千代	名古屋大学医学部附属病院	先端医療・臨床研究支援センター
澤 正史	安城更生病院	血液・腫瘍内科
高木 伸介	国家公務員共済組合連合会 虎の門病院	血液内科
高見 昭良	愛知医科大学内科学講座	血液内科
田口 潤	長崎大学病院	血液内科(原研内科)
田中 正嗣	(独)神奈川県立病院機構 神奈川県立がんセンター	血液内科
増岡 和宏	国家公務員共済組合連合会 三宿病院	血液内科
増子 正義	新潟大学医歯学総合病院	高密度無菌治療部・血液内科
山下 卓也	聖路加国際病院	血液内科
横山 寿行	独立行政法人国立病院機構 仙台医療センター	血液内科
横山 洋紀	東京慈恵会医科大学附属病院	腫瘍・血液内科
吉原 哲	兵庫医科大学病院	血液内科
石山 謙	金沢大学附属病院	血液内科
臼杵 憲祐	NTT 東日本関東病院	血液内科
太田 秀一	札幌北榆病院	内科
高田 覚	群馬県済生会前橋病院	血液内科
宮本 敏浩	九州大学病院	血液腫瘍内科
近藤 忠一	京都大学医学部附属病院	血液・腫瘍内科
杉田 純一	北海道大学病院	血液内科
町田 真一郎	東海大学医学部付属病院	血液腫瘍内科
青木 淳	(独)神奈川県立病院機構 神奈川県立がんセンター	血液内科
森 甚一	公益財団法人 ときわ会 常磐病院	血液内科
大中 貴史	小倉記念病院	血液内科
後藤 守孝	東京医科大学病院	血液内科
小沼 貴晶	東京大学医科学研究所附属病院	造血細胞移植チーム
土岐 典子	がん・感染症センター 都立駒込病院	血液内科
杉盛 千春	石川県立中央病院	血液内科

立花 崇孝	(独)神奈川県立病院機構 神奈川県立がんセンター	血液内科
山崎 聡	独立行政法人国立病院機構 九州医療センター	血液内科
新井 康之	米国国立衛生研究所(National Institutes of Health)	
水谷 元紀	愛知医科大学病院 内科学講座	血液内科
飯田 浩充	独立行政法人国立病院機構 名古屋医療センター	細胞療法科
大屋敷 一馬	東京医科大学病院	血液内科
木田 理子	NTT 東日本関東病院	血液内科
清水 啓明	群馬大学医学部附属病院	血液内科
竹田 淳恵	京都大学医学部附属病院	血液・腫瘍内科
水野 昌平	愛知医科大学病院	血液内科
柳田 正光	藤田保健衛生大学	血液内科
河田 岳人	京都大学医学部附属病院	血液・腫瘍内科
原田 介斗	がん・感染症センター 都立駒込病院	血液内科
水牧 裕希	石川県立中央病院	血液内科
平林 茂樹	京都大学医学部附属病院	血液・腫瘍内科
本橋 賢治	公立大学法人横浜市立大学附属市民総合医療センター	血液内科
山口 博樹	日本医科大学付属病院	血液内科
周山 拓也	(株)日立製作所 日立総合病院	血液・腫瘍内科

2. 承認研究の進捗状況(2016年1月-12月 ※JSHCT2017を含む)

2-1	「AML患者に対する RIST の有用性に関する研究」PI:青木淳
学会発表: 済(WG 研究業績一覧参照) 論文業績: 済(WG 研究業績一覧参照)	
2-2	「フィラデルフィア染色体陰性骨髄増殖性腫瘍から発展した二次性急性骨髄性白血病に対する同種造血幹細胞移植の解析」PI:高木伸介
学会発表: 済(WG 研究業績一覧参照) 論文業績: Takagi S, Masuoka K, Uchida N, Kurokawa M, Nakamae H, Imada K, Iwato K, Ichinohe T, Atsuta Y, Takami A, Yano S. Allogeneic Hematopoietic Cell Transplantation for Leukemic Transformation Preceded by Philadelphia Chromosome-Negative Myeloproliferative Neoplasms: A Nationwide Survey by the Adult Acute Myeloid Leukemia Working Group of the Japan Society for Hematopoietic Cell Transplantation. <i>Biol Blood Marrow Transplant.</i> 2016;22(12):2208-13.	
2-3	「成人 AML に対して iv Busulfan を用いた移植前治療による自家造血幹細胞移植の治療成績」PI:山下卓也
学会発表: 済(WG 研究業績一覧参照) 論文業績:	
2-4	「成人 AML に対して iv Busulfan を用いた移植前治療による同種造血幹細胞移植の治療成績」PI:山下卓也
学会発表: 済(WG 研究業績一覧参照) 論文業績:	
2-5	「初回寛解導入不応・再発非寛解期の急性骨髄性白血病に対する同種移植の予後解析」PI:横山洋紀
学会発表: 済(WG 研究業績一覧参照) 論文業績:	

2-6	「各染色体分類における急性骨髄性白血病に対する同種移植の予後の比較」 PI: 横山洋紀
学会発表: 済 (WG 研究業績一覧参照)	
論文業績:	
2-7	「急性骨髄性白血病に対する同種造血幹細胞移植後の再発リスク因子解析」 PI: 矢野真吾
学会発表: 済 (WG 研究業績一覧参照)	
論文業績:	
2-8	「AML 移植後再発に対する DLI の有用性と予後予測因子の解析」 PI: 高見昭良
学会発表: 済 (WG 研究業績一覧参照)	
論文業績: 済 (WG 研究業績一覧参照)	
2-10	「AML に対する緩和的前処置移植における低用量 TBI の必要性」 PI: 青木淳
学会発表: 済 (WG 研究業績一覧参照)	
論文業績: 済 (WG 研究業績一覧参照)	
2-11	「第一寛解期 AML に対する自家造血幹細胞移植の有用性と予後予測因子の解析 (HLA 一致同胞からの同種移植成績との比較)」 PI: 水谷元紀
学会発表: 済 (WG 研究業績一覧参照)	
論文業績: 済 (WG 研究業績一覧参照)	
2-12	「AML-M6/M7 に対する造血幹細胞移植」 PI: 石山謙
学会発表: 済 (WG 研究業績一覧参照)	
論文業績: Ishiyama K, Yamaguchi T, Eto T, Ohashi K, Uchida N, Kanamori H, Fukuda T, Miyamura K, Inoue Y, Taguchi J, Mori T, Iwato K, Morishima Y, Nagamura-Inoue T, Atsuta Y, Sakamaki H, Takami A. Acute megakaryoblastic leukemia, unlike acute erythroid leukemia, predicts an unfavorable outcome after allogeneic HSCT. <i>Leuk Res</i> . 2016;47:47-53.	
2-14	「AML における MPO 陽性芽球比率が同種造血幹細胞移植成績に与える影響についての解析」 PI: 田口潤
学会発表:	
論文業績:	
2-15	「多系統の形態異常を伴う AML (WHO 分類) における同種造血幹細胞移植についての解析」 PI: 田口潤
学会発表:	
論文業績:	
2-20	「biphenotypic acute leukemia に対する造血幹細胞移植の成績」 PI: 森甚一
学会発表:	
論文業績: 済 (WG 研究業績一覧参照)	
2-21	「成人 AML に対する同種造血幹細胞移植における細胞遺伝学的リスク層別化システム (Cytogenetic Risk Stratification System : CRSS) の開発」 PI: 山下卓也
学会発表: 済 (WG 研究業績一覧参照)	
論文業績:	
2-22	「中枢神経浸潤を伴った急性骨髄性白血病に対する造血細胞移植」 PI: 青木淳
学会発表: 済 (WG 研究業績一覧参照)	
論文業績: 済 (WG 研究業績一覧参照)	
2-23	「成人 AML に対する iv Busulfan を用いた骨髄破壊的移植前治療による同種造血幹細胞移植の治療成績」 PI: 山下卓也
学会発表: 済 (WG 研究業績一覧参照)	
論文業績:	
2-24	「成人 AML に対する iv Busulfan を用いた骨髄非破壊的移植前治療による同種造血幹細胞移植の治療成績」 PI: 山下卓也

2017;96(3):469-78.	
2-34	「若年者 AML に対する同種造血幹細胞移植における移植前処置強度と移植成績との関係」PI: 柳田正光
学会発表: 論文業績: Yanada M, Kurosawa S, Kobayashi T, Ozawa Y, Kanamori H, Kobayashi N, Sawa M, Nakamae H, Uchida N, Hashimoto H, Fukuda T, Hirokawa M, Atsuta Y, Yano S. Reduced-intensity conditioning allogeneic hematopoietic cell transplantation for younger patients with acute myeloid leukemia: a registry-based study. <i>Bone Marrow Transplant.</i> 2017 [Epub]	
2-35	「TP53 欠失を伴う AML に対する同種造血幹細胞移植成績に関する検討」PI: 森甚一
学会発表: 論文業績:	
2-36	「非寛解期 AML 患者の移植後予後を予測するノモグラムの作成とその検証」PI: 平林茂樹
学会発表: 論文業績:	
2-37	「t(7;11)(p15;p15)を伴う急性骨髄性白血病に対する造血細胞移植」PI: 原田介斗
学会発表: 原田介斗他 第 58 回米国血液学会 (平成 28 年 12 月 4 日-7 日)、サンディエゴ 論文業績:	
2-38	「inv(3)(q21;q26)/t(3;3)(q21;q26)を伴う AML に対する同種造血幹細胞移植の解析」PI: 青木淳
学会発表: 論文業績:	
2-39	「急性骨髄性白血病における染色体リスクと自家及び同種造血幹細胞移植の成績」PI: 柳田正光
学会発表: 論文業績:	

3. 会議開催記録(2016 年 1 月-12 月)

日時	場所	会議内容
2016 年 1 月 10 日	国立がん研究センター	新規研究に対する意見交換と研究の進捗状況の確認。
2016 年 7 月 9 日	名古屋第一赤病院	新規研究に対する意見交換と研究の進捗状況の確認。

4. メーリングリストによる意見交換 (メーリングリスト開設から 2016 年 12 月末時点まで)

(1273)回

5. WG の今後の活動方針・抱負など

AML の染色体異常は重要な予後因子です。しかし TRUMP のデータに記載されている染色体データの一部は判読が難しく、個人で予後分類を行うと結果にばらつきがでる可能性があります。成人 AML-WG では、NCCN ガイドラインに沿って 2015 年度データセットの染色体分類を行いました。判断が難しい場合は、一つ一つメンバーで議論を進めてまいりました。今後はこのデータを皆で共有できるよう、考えていきたいと考えています。